

# 感染症 ひとくち情報

## 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)について

2019年5月15日  
東京都健康安全研究センター

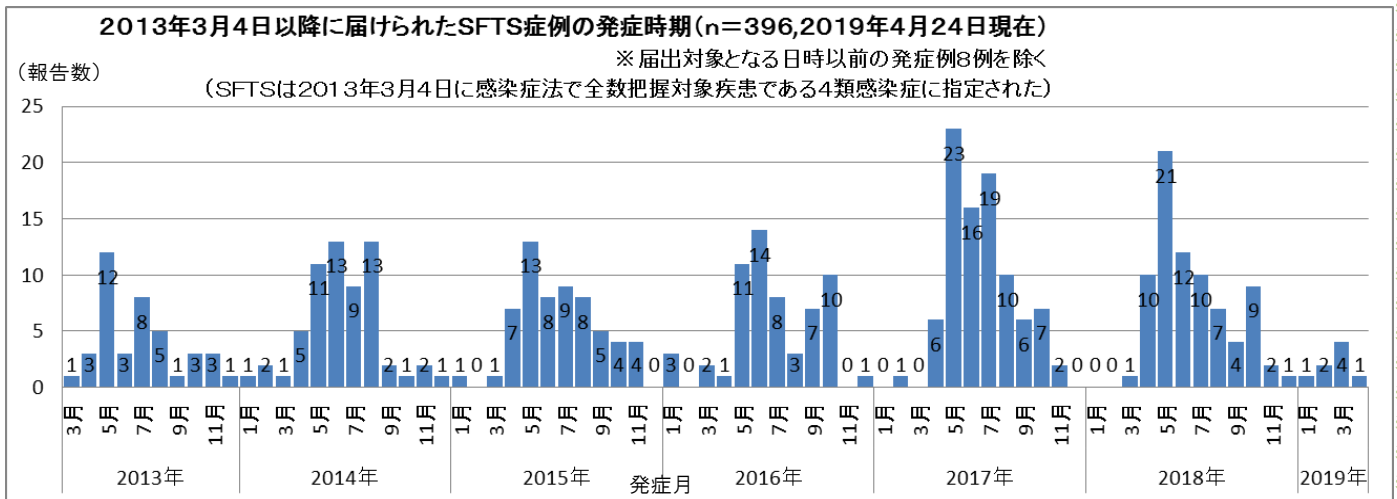


### 1 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）とは

2011年に初めて中国で特定されたSFTSウイルスによる感染症で、主にウイルスを有するマダニに咬まれることにより感染します。潜伏期は6日から14日程度で、主な症状は発熱と消化器症状（嘔気、嘔吐、下痢、腹痛）ですが、その他頭痛、筋肉痛、倦怠感、リンパ節の腫れ、出血症状等も見られ、死亡することもあります。特效薬はなく、発症した場合は対症療法が行なわれます。

### 2 発生状況

国内では、2013年1月に初めて患者が報告され、2019年4月24日現在、西日本を中心とした23府県で合計404人の患者が報告されています。都内では2019年5月に都外で感染したと推定される患者の報告がありました。



出典：国立感染症研究所ホームページより

### 3 予防のポイント

マダニは、様々な感染症を媒介することがあるため、咬まれないようにすることが重要です。特にマダニの活動が盛んな春から秋にかけては注意しましょう。草むらや藪など、マダニが多く生息する場所に入る場合には、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴を着用し、肌の露出を少なくすることが大切です。また、屋外活動後はマダニに咬まれていないか確認して下さい。

### 4 マダニに咬まれたら

マダニに吸血された場合には、無理に引き抜こうとせず、皮膚科などを受診してマダニを除去してもらって下さい。また、マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は医療機関で診察を受けて下さい。